

その生殖器の状態によって、すみやかに次の手段を講じることが不可欠である。

また、やみくもに授精を行っても40日目以前では高い受胎率は望めない。

受胎率は初回発情時よりも2回目発情時の方が高い。そのためには子宮の状態とも勘案し、40日目ころまでに初回発情があり、60日目頃の2回目発情時に人工授精できるような状態に持っていくことが重要だと考

えられる。

また、早期離乳の手法を取り入れて、良好な成績を収めている農家もあるが、早期離乳は手間も費用もかかる。その負担を乗り越えるほどのメリットを活用できる覚悟が必要である。

(いざいけ よしあき・岩手大学農学部獣医学課程教授)

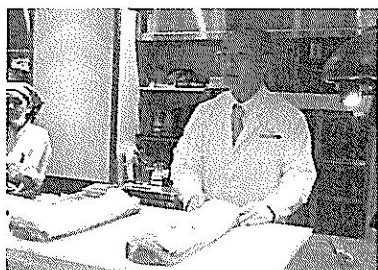
## トピックス

### ㈱ミートコンパニオンが琉球在来豚「あぐー」の試食説明会を開催

㈱ミートコンパニオン（本社・東京都立川市、阿部昌史社長）は、7月16日、同社のアンテナショップの「暖らん亭立川店」で、琉球在来豚「あぐー」の試食説明会を開催した。

当日は、招待された㈱すかいらーくをはじめとする取引先や報道関係者ら30人が参加し、琉球在来豚とコマースルベースの「あぐー」の説明を受けた後、焼肉による試食を行った。

今回の試食用豚肉は、JAおきなわ指定農場の沖縄県畜産センターの管理豚で、アグー（戻し交配により原種豚に還元された島豚）の血統75%と50%のアグーバッククロス豚。もともとアグーはラードタイプで、試食したあぐーも脂肪がしっかりとし脂肪融点は39℃とほかの豚肉よりも高い特徴をもつ。



試食用に供された「あぐー」の説明をする植村常務



試食をしながら商談がすすむ

「アグーの特徴として、胸椎と腰椎の椎骨の数が19本です。ランドレースは21本ですから高級部位の割合も少なくなります」と同社の植村常務が説明。

現在、沖縄ではアグーブランド豚として7つのブランドが存在する。そして管理体制ができる前に販売が先行し、多くの亜種が林立しているのが現状。今後はJAを主体に管理体制を確立し、系統の統一を図り種豚登録することが急がれる。

東京地域では推定で年間5000頭が流通しているが、㈱ミートコンパニオンでは、今後、週30頭の販売を予定している。「希少価値から価格は少し高いが、本来の豚肉の味、沖縄という地域ブランドを味方に商売につなげたい」と期待感を示す。